

令和6年度 文部科学省
現職日本語教師研修プログラム普及事業

生活者に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	株式会社インターカルト日本語学校
事業名	生活者のための研修プログラム普及事業
事業実施期間	令和6年4月～令和7年3月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者52名中、研修修了者40名



研修報告の構成

- 事業全体の概要
- 各研修の概要
- 受講生からの評価
- 成果と課題



■ 事業概要

事業の目的

日本語を母語としない生活者としての外国人が、言語・文化の相互尊重を前提としながら日本語で意思疎通を図り、自立した社会の一員となるために必要な日本語教育の基盤を担う、専門性を有する「日本語教師初任者の研修プログラム」を全国に普及することを目的とする。



■ 事業概要

「生活者としての外国人」のための日本語教師初任研修プログラム全体の構成

【講義】 + 【課題】

90単位時間

「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」
（報告）内の「「生活者としての外国人」に対する日
本語教師【初任】研修における教育内容」に準拠

★「生活者としての外国人」の背景、状況、特徴につ
いて学ぶ。

★「日本語教育の参照枠」の言語教育観の3つの柱の
理解と生活Can doを研修の中で学び、教育実践とし
て活用できるようになることを目指す。「目標となる
Can doに対応した行動体験型の授業を自力で設計・
立案できる能力」を養うこととする。

★事例研究

ZOOM

【各ブロック主催のセミナー】

北海道：一般社団法人北海道日本語センター

福島：一般社団法人ふくしま多言語フォーラム
蓬莱日本語教室

山口：インターカルト日本語教員養成研究所
周南公立大学内サテライト

福岡：NPO多文化共生プロジェクト

1. 講義とワークショップの構成
2. 5地域で主催する対面、オンラインの
研修を実施。

それぞれの地域の課題をそれぞれ事例として取り上げ、
広く理解を促す。

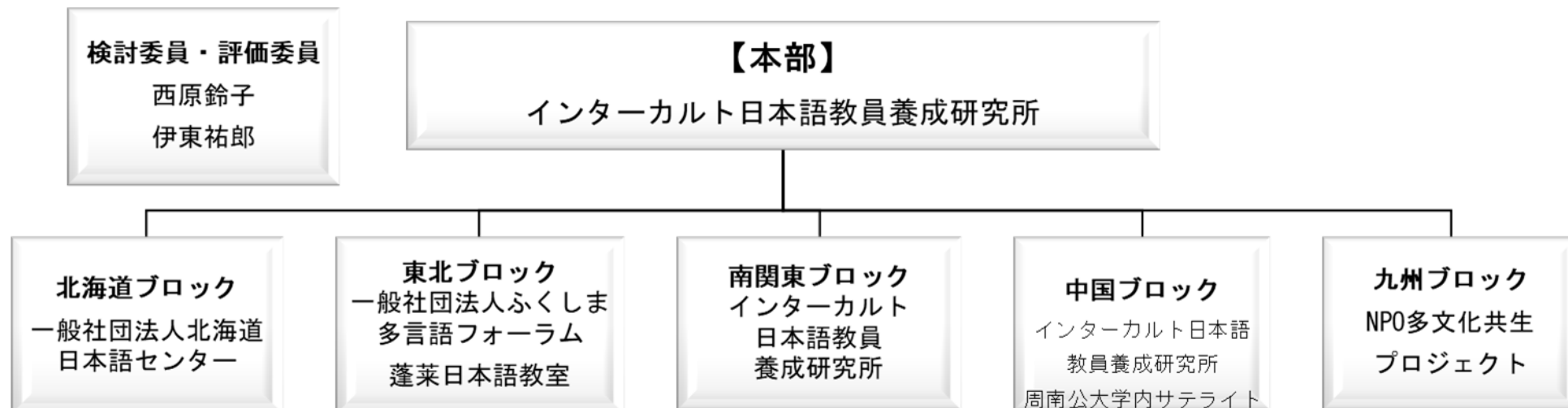
対面、ZOOM

【報告会】事業報告 ZOOM



■ 事業概要

事業全体の体制



委員会

研修プログラム検討委員会

事業評価委員会

業務チーム

研修運営チーム

事務管理チーム



■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修の目的、ねらい、研修の特徴

- ✓ 日本語教育人材として「生活者としての外国人」の様々な『多様』を理解し、その『多様』に臨機応変に対応できるための知識、技能と応用力と柔軟性を身につけることを目的とする。
- ✓ 「講義」は、地域の日本語教育において知見を有する講師陣から、「生活者としての外国人」の背景、状況、特徴について学ぶ。また、「様々な状況が存在する地域」の中で、その状況に臨機応変に対応できる日本語教師が担う役割について、多角的な視点からの講義を通し、必要な知識、技能、姿勢を学ぶ。
- ✓ 「地域の事例研究」は、この事業を共に実施する北海道ブロック、東北ブロック、中国ブロック、九州ブロックが主となり、それぞれの地域の課題をそれぞれ事例として取り上げ、広く理解を促す。
- ✓ 「日本語教育の参照枠」の言語教育観の3つの柱の理解と生活Can doを研修の中で学び、教育実践として活用できるようになることを目指す。「目標となるCan doに対応した行動体験型の授業を自力で設計・立案できる能力」を養うこととする。

研修内容の詳細はこちらをご覧ください



■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修スケジュール オンライン開催 90単位時間

生活者に関する日本語教育

日本語教育を取り巻く現状と変化	特定非営利活動法人 日本語教育研究所 理事長 西原鈴子
地域の日本語教室における日本語教師の役割	国際教養大学 専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域 特命教授 伊東祐郎
地域での活動における「日本語教育の参照枠」	インターカルト日本語教員養成研究所所長 加藤早苗

地域のICT

日本語教育におけるICTの活用と日本語教師の役割	西南学院大学外国語学部 学部長 山田智久
--------------------------	-------------------------



■ 各研修の概要

地域日本語教育Ⅰ

「生活者としての外国人」のための教材・教具の
リソースと著作権

凡人社 編集部編集長 渡辺唯広
凡人社 編集部主任 大橋由希

「生活者」に関わる日本語教師の姿勢
～学習活動から考える～

特定非営利活動法人 国際活動市民中心
(CINGA)
理事・日本語教育コーディネーター
千葉市国際交流協会 地域日本語教育の
体制づくり推進事業総括
コーディネーター 萬浪絵理

「外国人保護者の言語課題（子育ての日本語）
—生活Can doを活用した教室活動を考える—」

日本語サービスYOU&I 代表
国際交流基金日本語国際センター 客員講師
埼玉県地域日本語教育コーディネーター
関崎友愛

「生活Can doをベースにしたカリキュラム開発につい
て～（島根）の事例～」

（公財）しまね国際センター 事務局次長
仙田武司



■ 各研修の概要

地域の事例研究

北海道の取組み
「北海道における日本語学習支援の取り組み」

一般社団法人北海道日本語センター理事 大井裕子
一般社団法人北海道日本語センター理事 阿部仁美

東北の取組み
「地域とつながる日本語教室の実践
～消防署の活用～」

一般社団法人ふくしま多言語フォーラム理事 幕田順子
蓬萊日本語教室 副代表 佐々木千賀子

九州の取組み
「日本語教室の可能性を切り拓く福岡モデルとは」

NPO多文化共生プロジェクト 代表
福岡県・地域日本語教育コーディネーター
福岡市・地域日本語教育施策アドバイザー
深江新太郎

多文化共生

難民への日本語教育
～さぼうと21での実践から～

社会福祉法人さぼうと21 学習支援室チーフ
コーディネーター 矢崎理恵

「多文化共生と生活者支援における
日本語教師の役割～CINGAでの実践から～」

特定非営利活動法人 国際活動市民中心 (CINGA)
コーディネーター 新居みどり



■ 各研修の概要

地域日本語教育Ⅱ	
「日本語教育の参照枠」と「生活Cando」 を取り入れた地域の実情に即した活動案を考える	インターカルト日本語学校講師 内藤真穂 森友理 大井裕子・阿部仁美・荒ひろみ 幕田順子 佐々木千賀子
「日本語教育の参照枠」と「生活Cando」 を取り入れた地域の実情に即した活動案の発表・振 返り	インターカルト日本語学校講師 内藤真穂 森友理 大井裕子・阿部仁美・荒ひろみ 幕田順子 佐々木千賀子
研修全体の振り返りとこれから	インターカルト日本語教員養成研究所所長 加藤早苗

- ✓ ・「講義」は、「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」（報告）内の「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」に準拠。
- ✓ ・「生活者としての外国人」に対する日本語教師初任研修に求められる資質・能力に準拠。

■ 各研修の概要

募集方法 日本語教師【初任】研修

- ・インターネット上での広報
- ・日本語教育関係掲示板に掲載
- ・国際交流協会、日本語教育機関等へのメール配信
- ・各ブロックが責任を持って、関連機関等への広報活動
- ・インターカルト養成講座サテライト校へ広報活動協力依頼
- ・過去の養成講座修了生・生活者受講生への広報活動協力依頼

募集方法 各ブロック主催のセミナー

- ・今年度受講生への告知
- ・インターネット上での広報
- ・日本語教育関係掲示板に掲載
- ・各ブロックの地域での広報活動
- ・過去の生活者受講生への告知
- ・地域の国際交流協会等に後援の依頼

申込締切

8/20
(火)

主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所

文部科学省委託事業
令和6年度国際日本語教師
研修プログラム普及事業




「生活者としての外国人」に対する
日本語教師【初任】研修
～知る・学ぶ・学び合う研修～

2024年8月24日  **開講**

全1回 (8/24・12/25) 全90時間 (ライブ研修+課題)

 ZOOM 配信

対象 日本語教員養成講座420時間修了
または日本語能力検定総合合格
生活者への活動開始が0-3年程度の方

受講料 20,000円 (税込)

定員 100人

共催

北海道
一般社団法人北海道日本語センター

東京
一般社団法人ふくしま多言語フォーラム
東京日本国総領事館

中国
インターカルト国際公立大学内サテライト

九州
NPO多文化共生プロジェクト

お問い合わせ

インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所
〒110-0076 東京都港区新田2-20-8
03-5816-5019 | WWW.INCULC.COM

担当： 谷口





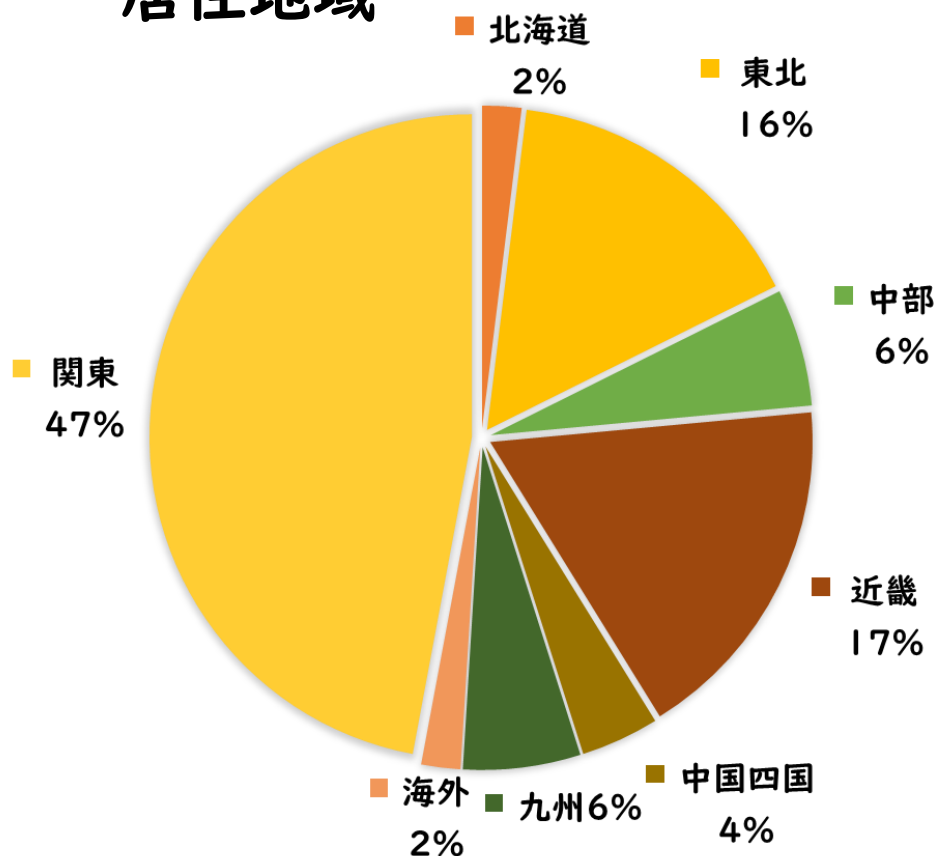
[illegible]



■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修 受講生の属性（全52人）

居住地域



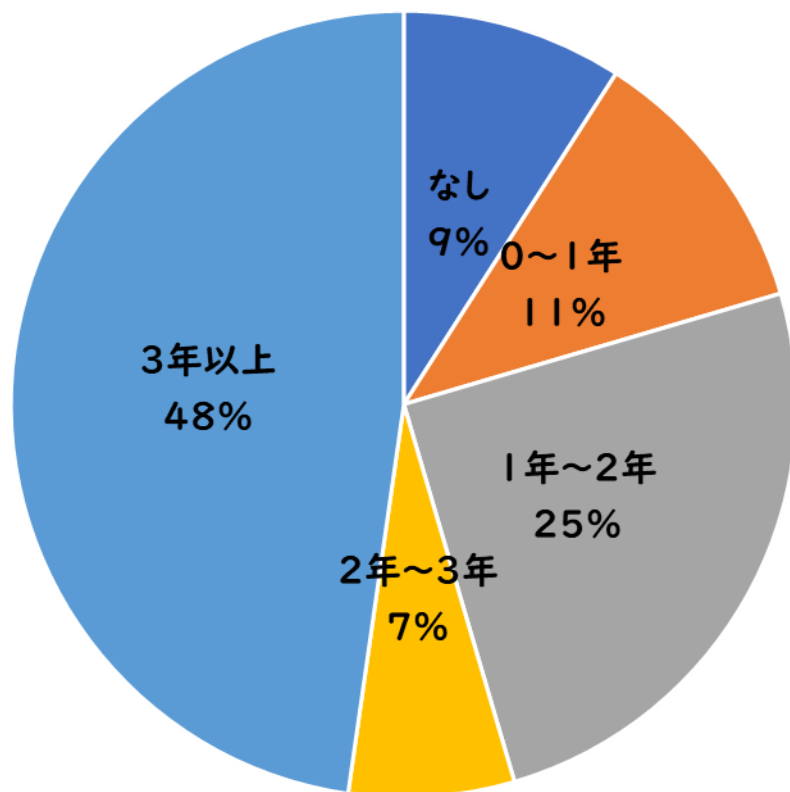
所属

日本語学校
専門学校
フリーランス日本語教師
国際交流協会
大学日本語教育センター
国際協力交流センター
国際親善協会
公益社団法人国際日本語普及協会
地域日本語ボランティアグループ
市役所職員
企業職員
在日外国人ろう者日本語教室
国際交流財団
小学校講師

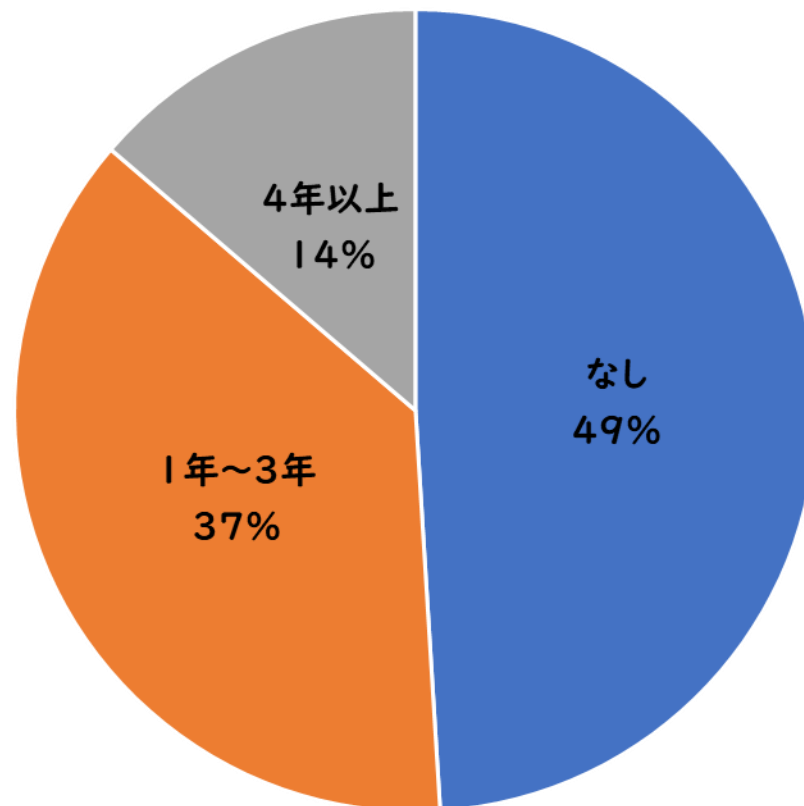


■ 各研修の概要

日本語教育歴



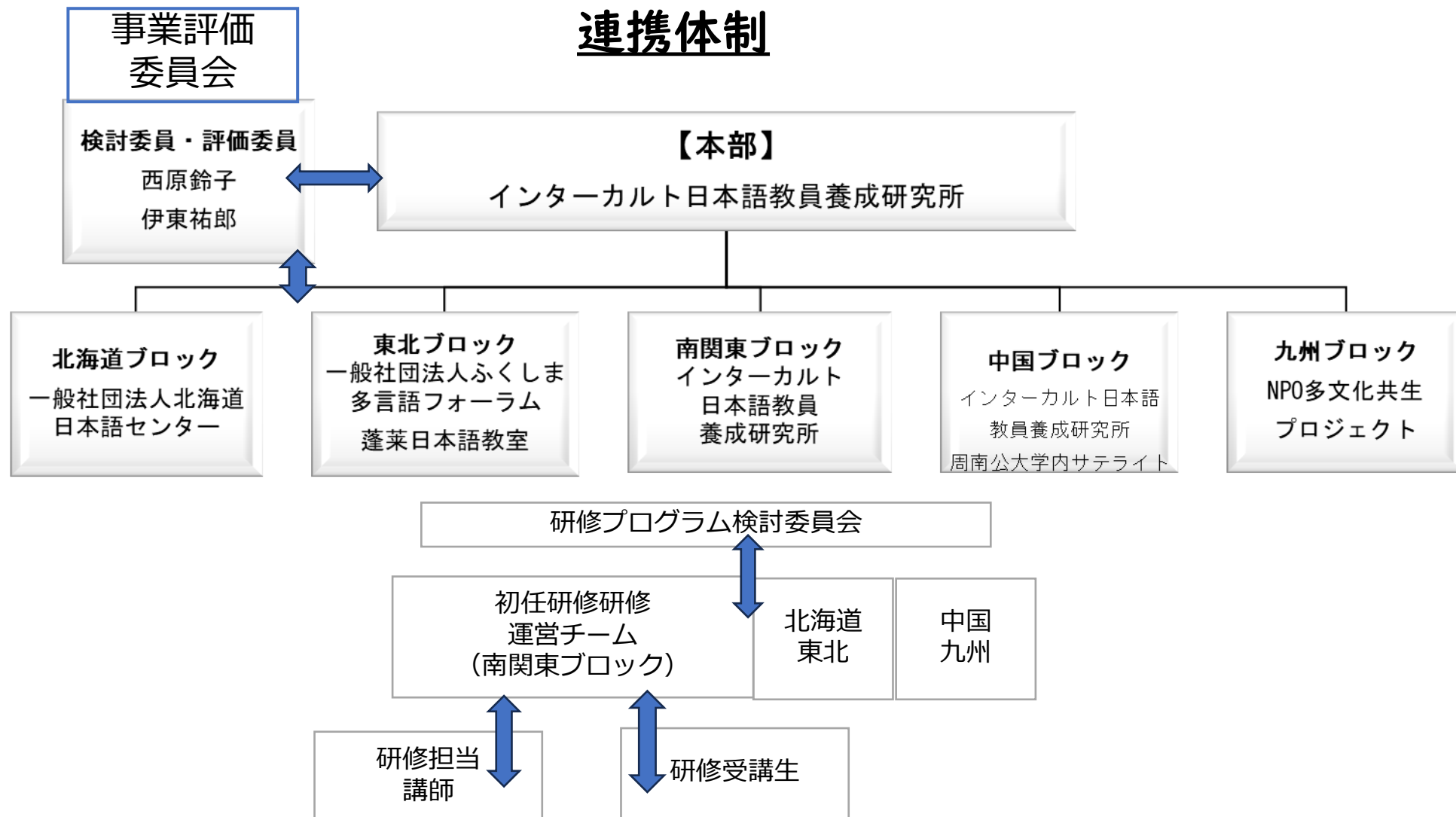
地域での教育歴





■ 各研修の概要

連携体制

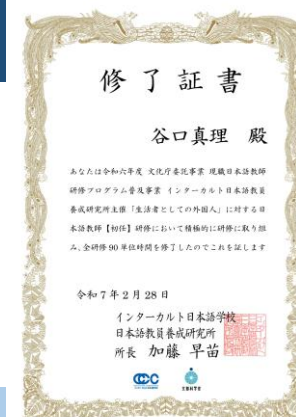




■ 各研修の概要

初任研修修了者数・修了要件

40名修了/52名受講



- ・有資格者であること（養成講座420時間修了または日本語教育能力検定試験合格、大学で日本語教育の主専攻副専攻で学んでいる）
- ・出席率が90%以上であること（または録画視聴）と毎回の振り返りシートを提出すること
 - *出席率について：オンタイムで研修に参加し、毎回の振り返りシートを提出すること。（録画受講の場合：録画動画の視聴をする。毎回の振り返りシートの提出をもって出席とみなす）
- ・課題の評価課題を全て提出、かつ課題の評価が70点以上であること。

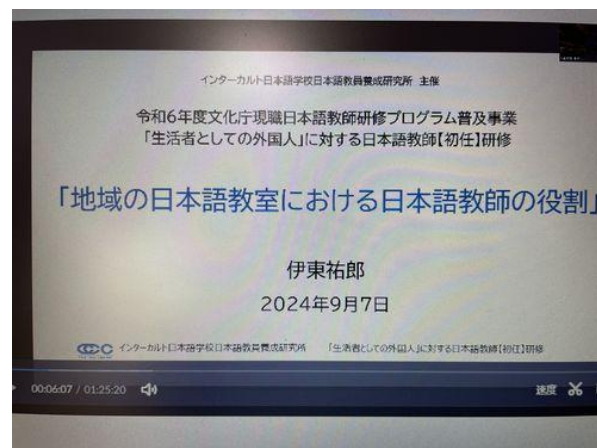
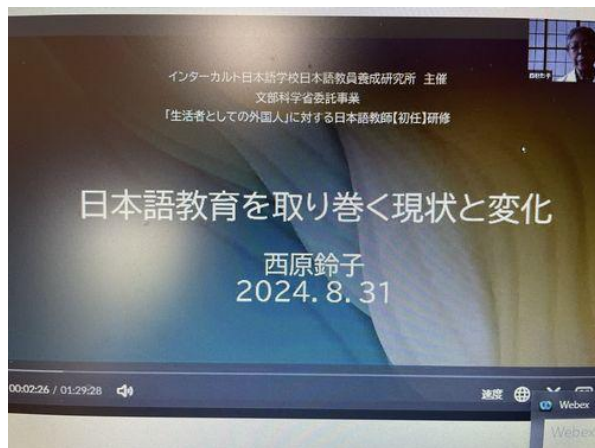
上記の要件を満たした方には修了とみなす。



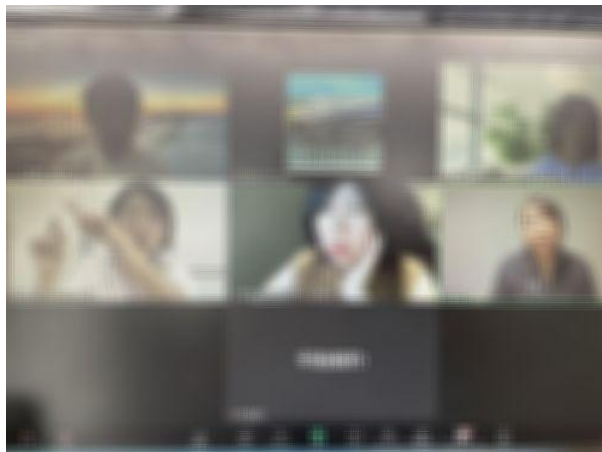
■ 各研修の概要

日本語教師【初任】研修の様子

【講師作成のスライドを共有しながらの研修の様子】



【研修中はBORでグループで話す機会が多数あった。話し合いの内容をPadletを使用して全体共有】





■ 各研修の概要

テーマ： 地域の仲間集まれ！「地域再発見」つながろう、深めよう対面セミナー

【北海道ブロック】

**「明日から学べるヒントが山盛り！
ベテランから学ぼうスキル別の教え方」**

<ねらい>

- 活動が浅い日本語教師初任、日本語学習支援者が学ぶ機会を作る
- 自分の活動の場に持ち帰って活かしてもらう

<参加者>

56名(定員60名)

<内容> 地域の日本語教室の活動内容を知る

8クラス

会話(初級・中級)・読み(初級・中級)

書き(初級・中級)・漢字(初級・中級)

日本語教育の参照枠に則って

初級(A1～A2)

中級(A2～B1)

文部科学省委託事業令和6年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修

地域の仲間集まれ！！「地域再発見！つながろう、深めよう」対面セミナー

日本語教師のための
「生活者に対する日本語学習支援」
体験会

明日から使えるヒントが山盛り！
ベテランから学ぼう
スキル別の教え方

日時：10月6日（日）13:30～16:00
場所：TKPガーデンシティ札幌駅前カンファレンスルーム 5A・B
（札幌市中央区北2条西2丁目19アパホテルTKP札幌駅前）
対象：日本語学習支援に関心のある方
定員：60名程度（先着順、要申込）
申込：9月30日（月）20時まで
下記のURLまたは右のQRコードからお申し込みください。
<https://forms.gle/Qhw8zvvtu69gmBC588>

参加無料

ベテラン教師が
外国人学習者に
日本語を教えます。
一緒に授業を
体験してみよう！

4つのスキル×2つのレベル
全部で8クラス
30分の授業を2回
体験できる！

体験後は
教材や授業について
ベテラン教師に質問して
疑問や不安を解決！

漢字（初級・中級）
読み（初級・中級）
書き（初級・中級）
会話（初級・中級）

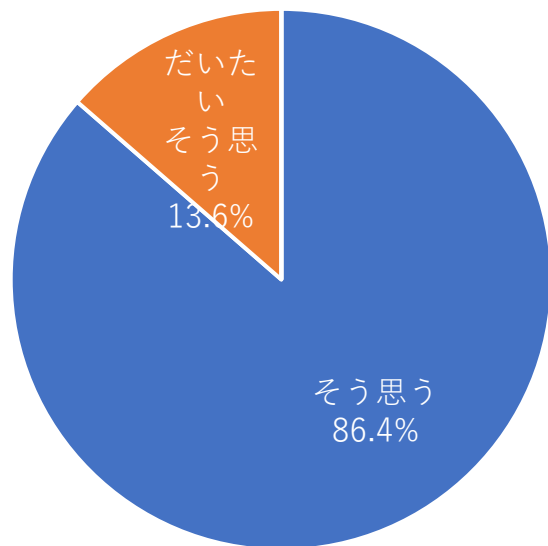
主催：インターカール日本語学校 日本語教員養成研究所
共催：（一社）北海道日本語センター



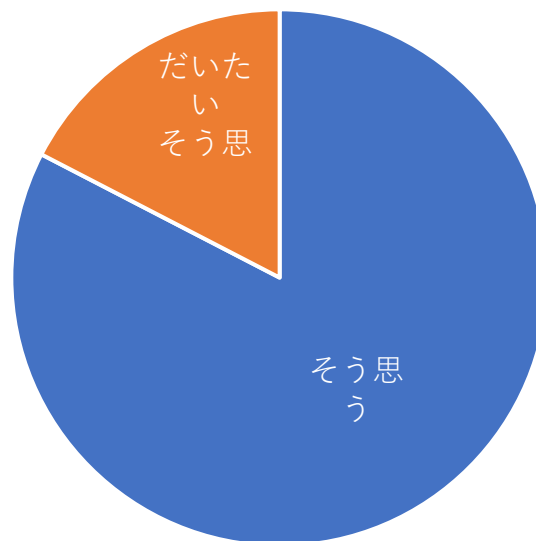
■ 各研修の概要

【成果と課題】

有意義な内容だった



役立つ知識を学ぶことができた



日本語教師初任、日本語学習支援者が学ぶ機会を作ることができ、多くの人が満足したと答えてくれた

日本語教師初任、日本語学習支援者がそれぞれの活動の場で活かせるように授業や活動のヒントを持ち帰ってもらえた



■ 各研修の概要

【東北ブロック】

「日本語アクティビティ『防災』の体験」

<ねらい>

- ◆ 発災直後は、日本人・外国人問わず地域住民の共助が必要である。その共助の関係性につながる「防災」とテーマについて日本人・外国人がいっしょに防災アクティビティを体験して、意見交換をし、助け合える関係性についていっしょに考える。

<参加者>

日本人19名・外国人9名

<内容>

- ・ グループ内 自己紹介(アイスブレーキング)
- ・ アクティビティ①
「自分(家族)の身の安全確保の後にできること」
- ・ アクティビティ②
「非常用持ち出し袋に何を入れる？」
- ・ 振り返り(グループ内話し合い→全体共有)・まとめ



主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所
文部科学省委託事業令和6年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修



地域の仲間集まれ！！
「地域再発見！つながろう、深めよう！」対面セミナー

日本語アクティビティ「防災」の体験



いつでも起こりうる自然災害。

いざというとき、特に発災直後は、日本人・外国人を問わず地域住民による共助が必要となります。

その共助の関係性づくりにつながる「防災」をテーマとした日本語のアクティビティを、体験してみませんか。

外国人住民も一緒に体験します。

体験後は、皆さんで意見交換を行います。

参加費
無料

2024年9月29日（日）10時～12時

会場：コラッセふくしま 401会議室（福島市三河南町1-20）

対象：地域の防災や日本語活動に関心のある方 30人（先着順受付）

申込先▼（定員になり次第、募集締め切り）
<https://forms.gle/fbjtWgZTmnkc1YSJ9>

問い合わせ先▼

（一社）ふくしま多言語フォーラム（幕田）

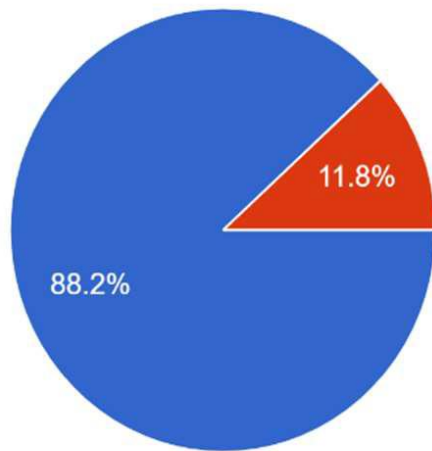
E-mail：info@fml81.org

TEL：024-905-1589





■ 各研修の概要



- とても良かった
- どちらかという良かった
- どちらかという良くなかった
- 良くなかった



【成果】

- ・ 外国人と日本人との協働活動、学び合い、多様な意見交換の場であった。
- ・ 地域とのつながりの大切さを多様な意見交換の中で実感できた。

【課題】

- ・ 一回だけの活動ではなくて、継続していくことで防災に対する意識が定着すると思う。





■ 各研修の概要

【中国ブロック】

地域日本語教育における課題を異なる視点から見る！ 新しいアイデアを考える！「アイデア創出ワークショップ」

<ねらい>

生活者としての外国人は、散在し、また多様なニーズに耐えうるリソースも限られているといった問題もあります。

これらの課題に対する方策は各所で考えられているものの、具体的かつ効果的な解決方法はいまだに見つけられていません。この現状に対して、背景の異なる参加者がともに課題について話し合う場を設けることで新たな視点を生み出すことを目的として実施しました。


<参加者>

日本語教育関係者 18名 大学生 4名


<内容>

多様なデザインを考えるとときに共通の、「ものの見方・考え方」が存在それを体系的に手法としてまとめたものが、「デザイン思考」。


グループでペルソナを決めて、アイデアを創出しながら課題解決に向けてについて話し合いを行う。



文部科学省委託事業令和6年度
現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修
主催：インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE AND SPORTS



地域日本語教育における 課題を異なる視点から見る！ 新しいアイデアを考える！ 「アイデア創出 ワークショップ」

地域で学ぶ日本語学習者は、さまざまな背景をもっています。この背景にそった学習支援をしていくことは、簡単なことではありません。これまでみなさんが学ばれてきたように背景（生活事情、文化事情、学習目的等等）が多様だからです。

この難しさに、支援者個々のアイデアで立ち向かうことは、とても難しいのではないのでしょうか。私たち（個）が考える解決策のアイデアは、どうしても私たち（個）の域を超えてくれません。そこで、本研修では、さまざまな背景をもつ参加者（日本語教師、自治体、学生など）と、問題を解決するアイデアを作りをしていきたいと考えています。

2025年2月1日（土）（オンライン実施）

前半 9：30－12：45（休憩15分）

後半 14：00－17：15（休憩15分）


お申し込み

<https://forms.gle/Wh1ZyxWPqgeri8aA>

【研修の流れ（例）】

- アイデアを出す、考えるということを科学的に学びます。
- アイデアを出す体験をします。
- みなさんが抱えていらっしゃる課題を例に、多様な参加によるアイデア創出を行います。

定員：先着10名（ワークショップそのものは20名程度で実施しますが半分の参加者は現職日本語教師以外で募集しております）



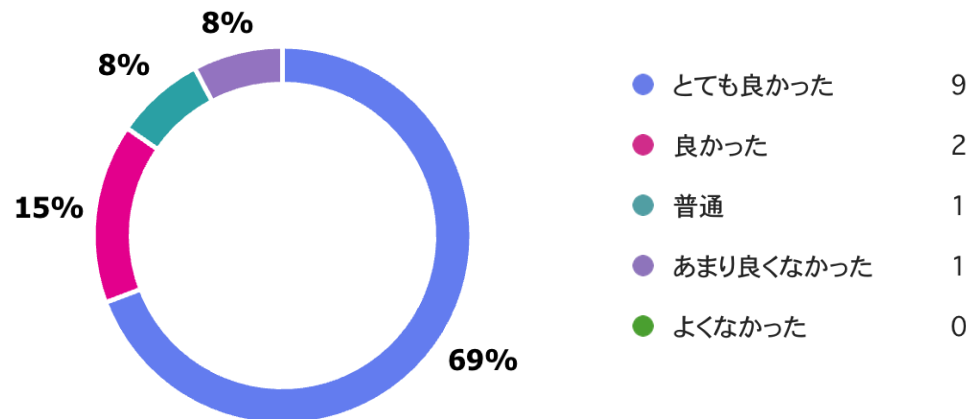
お問い合わせ
周南公立大学 立部文崇
tatebe[at]shunan-u.ac.jp
（[]を外してください。）

本研修は、みなさんの日頃の課題を解決に導く、アイデアの閃きにつながります。
ぜひ、ご参加ください。



■ 各研修の概要

1. 今日のセミナーはどうでしたか。

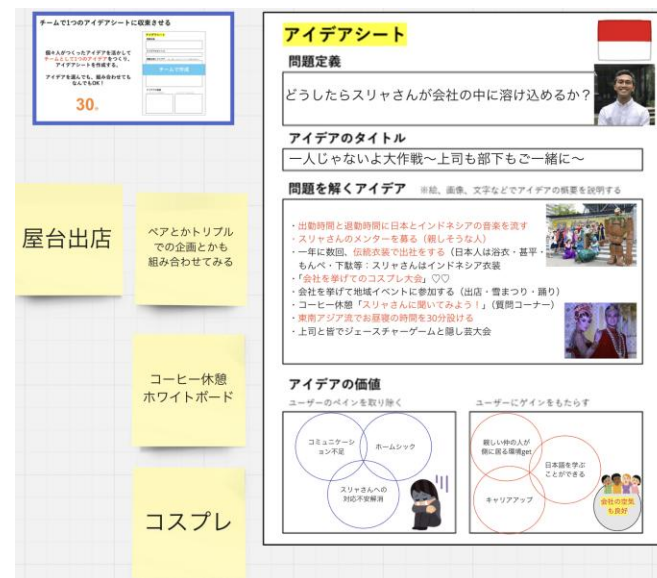


【成果】

- アイデアを創出するというアイデア創出そのものをプログラムとしたこと
- 多様な視点で考えることの意義を感じてもらえたこと

【課題】

- 参加者が日本語教育関係（生活支援関係者含め）に偏りがあったこと
（地域性を持たせたが、それほど地域性に違いは見られなかった）
- アイデアを創出する体験をしてもらうことを（自分たちが持っている課題に合目的としていたが、うまく伝えきれていなかったこと



■ 各研修の概要

【九州ブロック】

「地域日本語教育の可能性を切り拓く」

<ねらい>

地域日本語教育のガバナンスを問うことで
地方公共団体を軸にした施策の道筋を見つけること

- ①言語教育政策と地域日本語教育
- ②地方公共団体による地域日本語教育施策

<参加者>

日本語教育関係、国際交流協会、企業等
39名

<内容>

講演1 地域日本語教育と言語教育政策
神吉宇一(武蔵野大学)

講演2 福岡県における地域日本語教室の展開とその意義
深江新太郎(NPO多文化共生プロジェクト)

意見交換 テーマ:地域日本語教室の意義をどうことばにする？
高柳香代(宮崎県国際交流協会)

主催 インターカルト日本語学校

文部科学省委託事業令和6年度現職日本語教師研修プログラム普及事業
「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修
対面セミナー・九州ブロック



地域日本語教育の可能性を切り拓く

みなさんは、地域日本語教室の意義をことばにできますか？そもそも、地域日本語教室はなぜ必要なのでしょう？教室に来る学習者が減っているという声がある一方で、日本語教室がない地域では教室立ち上げがすすめています。本セミナーはこのような背景のもとに、地域日本語教育について① 何のために行うか、② ①に即してどう具体化するか、③ ②の取り組みの意義をどうことばにするか、について考えます。



講演1 地域日本語教育と言語教育政策

14時05分～14時45分

神吉宇一(武蔵野大学)

日本語教育政策、地域日本語教育などが専門。現在の興味関心の中心は、「ことばの教育を通して共生社会を実現するとはどういうことなのか」を探究すること。小倉出身、九州好き、先祖は熊本で職人をしていました。



講演2 福岡県における地域日本語教室の展開とその意義

14時50分～15時30分

深江新太郎(NPO多文化共生プロジェクト)

福岡県と福岡市が取り組む「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」のコーディネーターなど。地域日本語教室にはどのような可能性があるのかをテーマにアクション・リサーチをしています。熊本は学部時代を過ごした第二の故郷です。



意見交換 テーマ

地域日本語教室の意義をどうことばにする？

ファシリテーター

15時40分～16時25分

高柳香代(多文化デザインコンパス、宮崎県国際交流協会)



セミナー終了後の16時30分から17時30分まで、同会場を開放し登壇者と自由に話ができる時間を準備しております。セミナー内で聞けなかったことなど、どうぞ自由にお聞きください。凡人社による書籍展示もごさいます。

共催：NPO多文化共生プロジェクト 後援：熊本市国際交流振興事業団、福岡市、宮崎県国際交流協会、凡人社、アルク、日本語教師養成コンソーシアム九州沖縄(CJT九州沖縄)

日時：2025年1月11日(土) 14時～16時30分

場所：熊本森都心プラザA、B会議室(熊本県熊本市西区春日)、JR熊本駅より徒歩3分

料金：無料

定員：50名(先着順、どなたでもご参加できます)

お申込み先：<https://forms.gle/CC6qTYVNJRBPWk4A>

申し込み用QRコード

お問い合わせ先：seikatsusha_info@incul.com、03-5816-5019(担当：谷口・菅渡)





■ 各研修の概要

(1) 今日のセミナーはどうでしたか。

とてもよかった	78% (18 名)
よかった	22% (5 名)
ふつう	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0

小数点以下切り上げ

【成果】

- ・教育の社会的価値と効果にずれ・ゆがみが出ていると認識することがまずは重要
 - 地方公共団体や日本語教室の運営スタッフが自らの施策, 取り組みの意義を確認できたこと
 - 社会的価値と効果のずれをなくすためには, 当事者のニーズを基にそれを社会的に承認するプロセスが必要であることを確認できたこと

【課題】

- ・具体的な地方公共団体の施策を基に, ガバナンスの在り方とニーズの生成・承認のプロセスを明確にすることが必要である。

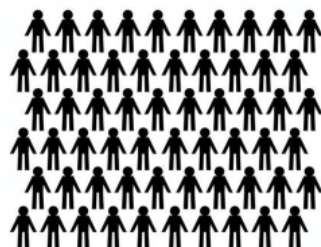


■ 各研修の概要



研修後のネットワーク作り

令和6年度研修後のネットワーク作り



研修修了者 現在
約300名

登録フォームを送付

登録



インターカルト日本語学校

現在

学びの場の提供

プラットフォーム作り

令和5年度

学びの場の提供

情報共有の場

採用情報等提供の場

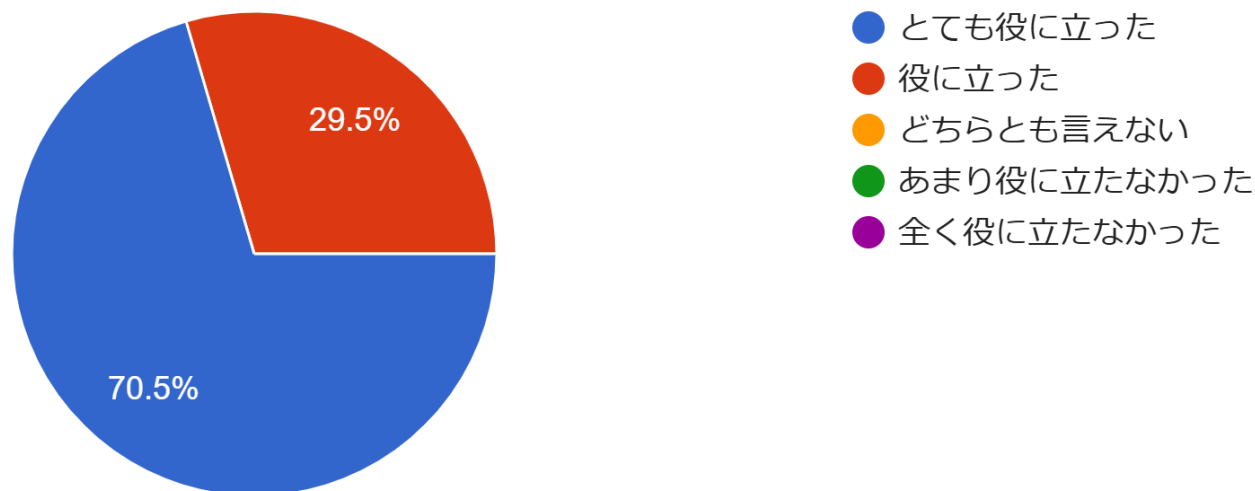


■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果①

長い研修、お疲れさまでした。16回の研修を受講していかがでしょうか。

44 件の回答





■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果② 42名回答

とても役に立った、役に立ったと答えた方へ どの研修内容が役に立ちましたか(複数回答可)	
日本語教育を取り巻く現状と変化	51.2%
地域の日本語教室における日本語教師の役割	55.8%
地域での活動における「日本語教育の参照枠」	62.8%
「生活者としての外国人」のための教材・教具のリソースと著作権	55.8%
「生活者」に関わる日本語教師の姿勢～学習活動から考える～	55.8%
「外国人保護者の言語課題(子育ての日本語)」	74.4%
「生活Can doをベースにしたカリキュラム開発について～(島根)の事例～」	58.1%
北海道の取組み「北海道における日本語学習支援の取り組み」	51.2%
東北の取組み「地域とつながる日本語教室の実践～消防署の活用～」	44.2%
九州の取組み「日本語教室の可能性を切り拓く福岡モデルとは」	55.8%
日本語教育におけるICTの活用と日本語教師の役割	65.1%
難民への日本語教育 ～さばうと21での実践から～	55.8%
「多文化共生と生活者支援における日本語教師の役割～CINGAでの実践から～」	53.5%
「日本語教育の参照枠」と「生活Cando」を取り入れた地域の実情に即した活動案を考える①	60.5%
「日本語教育の参照枠」と「生活Cando」を取り入れた地域の実情に即した活動案を考える②共有・まとめ	44.2%

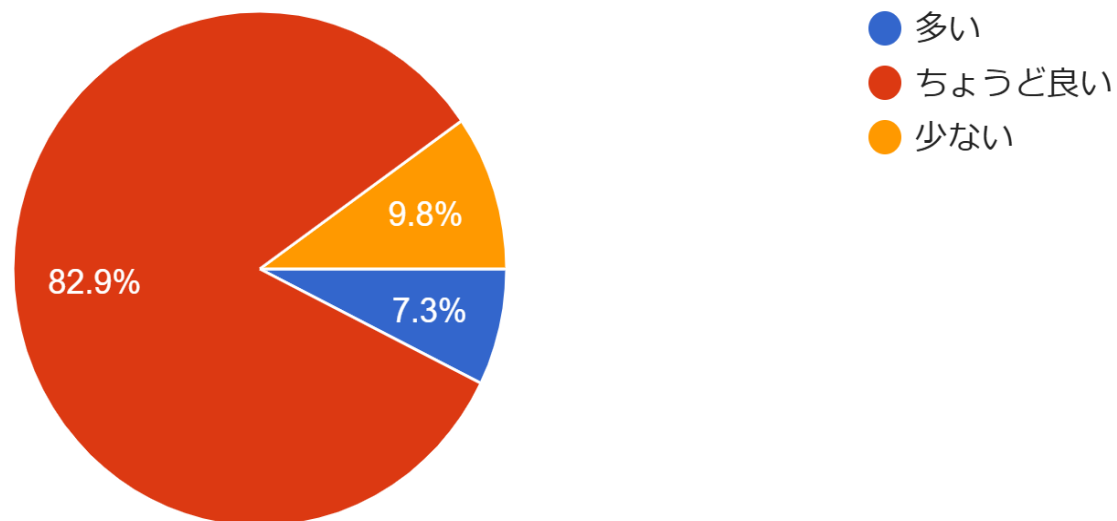


■ 受講生からの評価

研修修了振り返りアンケートの結果③

課題の量はいかがでしたか（3回）

41 件の回答





■ 受講生からの評価

研修の自己評価について

★【研修前】と【研修終了後】自分自身のことを客観的に見てみようシートの記入

★シートは日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力を客観的に自己評価をする

日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力

表2

	知識	技能	態度
日本語教師【初任】（生活者としての外国人）	<p>【1 「生活者としての外国人に対する指導の前提となる知識」</p> <p>(1) 地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。</p> <p>(2) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。</p> <p>(3) 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。</p> <p>【2 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。</p> <p>(5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>(6) 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するということを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>(2) ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。</p> <p>(3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。</p> <p>(4) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を引き出すための教育実践を行うことができる。</p> <p>【2 成長する日本語教師になるための技能】</p> <p>(5) 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。</p> <p>【3 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(6) 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者より良い関係を構築できるよう促すことができる。</p> <p>(7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。</p>	<p>【1 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確に捉え、その個別性と学びに向き合おうとする。</p> <p>【2 学習者に対する態度】</p> <p>(2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。</p> <p>(3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。</p> <p>【3 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。</p> <p>(5) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワメントとしての日本語教育を実践しようとする。</p>



■ 受講生からの評価

【研修終了後】自分自身のことを客観的に見てみようシートの結果、★印の項目に知識・技能・態度について向上が見られた。

日本語教師【初任】（生活者としての外国人）に求められる資質・能力

表 2

知識	技能	態度
<p>【1 「生活者としての外国人に対する指導の前提となる知識」】</p> <p>★ 地域・外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。</p> <p>★ 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。</p> <p>★ 地域日本語教育における多様な学びと、指導者・支援者の役割や連携体制について理解している。</p> <p>【2 日本語の教授に関する知識】</p> <p>★ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。</p> <p>★ 「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>★ 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するということを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1 教育実践のための技能】</p> <p>★ 日本語教育プログラムを踏まえ、学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>★ ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。</p> <p>★ 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。</p> <p>★ 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を引き出すための教育実践を行うことができる。</p> <p>【2 成長する日本語教師になるための技能】</p> <p>★ 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。</p> <p>【3 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>★ 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者により良い関係を構築できるよう促すことができる。</p> <p>★ 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。</p>	<p>【1 言語教育者としての態度】</p> <p>★ 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確に捉え、その個別性と学びに向き合おうとする。</p> <p>【2 学習者に対する態度】</p> <p>★ (2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。</p> <p>★ (3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。</p> <p>【3 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>★ 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。</p> <p>★ 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワメントとしての日本語教育を実践しようとする。</p>



■ 受講生からの評価

日本語教師【初任】研修修了アンケートから (受講生の主な感想)

- 豊富な内容と素晴らしい講師陣を揃えてくださり有り難うございました。受講前は「生活者としての外国人を対象にした日本語教育」といってもあまりにも広大で爆戦としたイメージしか無かったのですが、連続研修で全国の様々な具体的事例を知ったことでおおまかなイメージを持つことができた様に思います。またそれを自分の地域や現場にどう当てはめていけばいいか、何ができるかを考える時に、「生活Can-do」のリストが役に立つというのもとても有意義で役に立つ体験でした(実際にどう生かすかは今後の私の課題ですが)。そしてオンラインで全国の仲間達の顔と声と考え方、現場の状況と出会えたことがとても大きな収穫でした。アイデアと知恵、勇気と元気を貰いました。これからに繋げていきたいと思っています。
- オンライン開催で録画視聴も可能だということが大変ありがたかったです。地方にいながら著名な先生方の素晴らしい研修を受講することができるなんて、夢のような5か月間でした。地域日本語教育の全体像や日本語教師の役割、各地域の具体的な取り組みなど、どの研修もこれまでの自分の活動を見直し、今後について深く考えさせられる内容でした。また、著作権や難民への日本語教育についてのお話は新しく知ることが多く、本当に目を開かされたような思いになりました。この研修で得た知識や学びで、さっそく実践してみたこともあります。それぐらい、私にとっては心を動かされる内容ばかりでした。一緒に受講した皆さんとの交流も大変楽しかったです。BORでの話が尽きず、お別れするのが寂しいぐらいのときもありましたが、全国に志を同じくする仲間がいるということだけでも心強く感じます。運営にあたってくださったスタッフの皆さまにも、心から感謝いたします。毎週明るい雰囲気です丁寧に対応していただき、本当にありがとうございました。
- 手話通訳士の配置、他の受講生への周知などの配慮に感謝致します。講師達の話聞きながら、私達なりに出来ることは何かという、鑑みることが出来ました。特に生活cando一覧表は今後にも必要になりそうです。



■ 成果と課題

事業評価について

【評価の項目】

①カリキュラムの構成

- ・研修内容は、研修の目標に即した内容であったか(参加者のアンケート結果を踏まえて)
- ・日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求める資質・能力に即した内容であったか
- ・「講義」「地域の事例研究」「課題」のバランスはどうであったか
- ・「講義」「地域の事例研究」、持続可能な研修内容であったか
- ・講師に研修プログラムの目標、参加者の属性等の情報を事前に伝えていたか、講師がそれを理解をしていたか
- ・講師間で研修の内容のダブりが無いように調整できたか

②運営・実施の体制

○広報について

- ・研修実施についての広報活動を適切だったか
- ・広報活動の時期, 方法媒体等が適切だったか
 - ・チラシの内容など、受講者に伝わったか
- ・目標人数は達成できたか



■ 成果と課題

○研修のZOOMについて

- ・時間通りに開始できたか
- ・ブレイクルームは課題を全員が把握し、活発な話し合いが行われたか
- ・全員が問題なく参加できていたか。できなかった人のフォローはできたか
- ・情報を共有するためのツール「padlet」「スプレッドシート」「チャット」の操作について

○研修参加について

- ・受講者に研修の情報、ZOOMの操作、情報、課題の内容等もれなく伝えられたか
- ・研修担当講師に受講者の情報を適切に伝えることができたか
- ・受講者の出席状況、課題の提出状況等、研修担当者間での共有ができていたか

③受講生の修了状況

- ・受講生の修了人数について
- ・修了できなかった参加者へのフォローは適切だったか
- ・研修課題の内容と評価基準は適切であったか
- ・課題未提出の受講生への対応はどのように行ったか
- ・修了要件の基準は妥当であったか

④報告会について

- ・報告会の構成はどうだったか
- ・アンケートの結果、参加者の評価はどうだったか
- ・参加者の意見に関して、今後どのように改善していくか

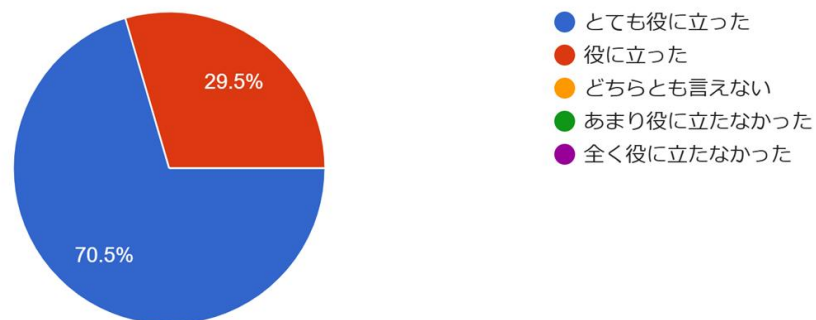


■ 成果と課題

成果と課題について

長い研修、お疲れさまでした。16回の研修を受講していかがでしょうか。

44 件の回答



①のカリキュラムの構成についての成果

- ・アンケート結果から、研修内容についての満足度は高かった。
- ・日本語教師【初任】(生活者としての外国人)に求められる資質・能力についての研修前、研修後に実施した「自分自身のことを客観的に見てみようシート」の結果から、「知識・技能・態度」について改善が見られた。

①のカリキュラムの構成についての課題

- ・長期間にわたる土曜日の午前中に研修であったので、研修の順番が一部、講師の都合が優先になってしまったので、全体の流れを考えて、研修の順番を考える必要があった。



■ 成果と課題

②運営・実施の体制の成果

○広報について

- ・幅広く広報活動は実施し、全国からの申し込みはあったが、目標人数には達しなかった。

○オンライン研修について

- ・ZOOMで実施したが、受講案内にZOOMの操作について記載したので、受講生が操作に関してトラブルになることはなかった。
- ・ブレイクアウトルームで受講生同士の交流ができて良かった
- ・今年度は初日にオリエンテーションの時間を設けて、情報を共有するためのツール「padlet」「スプレッドシート」ZOOMの「画面共有」の操作について受講生に事前にレクチャーをしたので、研修中は操作についてのトラブルはなかった。

②運営・実施の体制の課題

○広報について

- ・100名の募集に関して、52名の応募であった。目標に達しなかった理由として、この研修が、終了後どのようなキャリアパスにつながっていくのか、見えなかった。
今後は広報の工夫が必要である。

○オンライン研修について

- ・録画で視聴できることはプラスの要素ではあるが、安易に視聴すればよいとの方向に流れる傾向があると感じた。
今後は録画で視聴とリアルで参加する人に対して、同じ条件での終了にすることに対して、検討が必要である。



■ 成果と課題

③受講生の修了状況の成果

- ・修了要件を満たした受講生は52名中40名であった。
今年度は、ろう者の受講生6名が参加したが、全員有資格者ではないので、その分修了要件を満たす人数が少なくなってしまった。ただ、ろう者の参加も工夫によって、聴者と同じように研修を受けられることが認識できたことは大きな成果である。
- ・受講生の管理を数名で実施し、常に複数の目で課題の提出や出席状況について管理していたのでフォローが必要な人には適切な案内ができた。
- ・提出期限を決めて、フォローが必要な方には段階的に案内ができて、課題の提出等も促すことができた。

③受講生の修了状況の課題

- ・途中から参加しなくなった方が数名いたが、なぜ参加しなくなったのかの後追いができなかった。
- ・修了できなかった理由を分析する必要がある。どのように形で分析するのか方法を考える必要がある。

④報告会についての成果

- ・当校の事業の取り組みを多くの方々に伝えられたのは成果である
- ・普及事業のメンバーが全員参加しての報告会だったので、主催者側があたためて、今年度の普及事業の振り返りができたこと。。また、今後のつながる話し合いもできたこと。

④報告会についての課題

- ・時間の関係で、各取り組みの成果と課題が、十分に伝えきれなかったこと。



■ 成果と課題

評価委員会から



【成果】

- ・この研修で、具体的な生活者のイメージは理解されたと思う。
- ・日本語教育の参照枠など最新の知識を把握できたのではと思う。
- ・自治体が日本語教育とどう結びついていくのか、まだ時間はかかるのでイメージを持った人たちを増やしていくことが今は必要である。
- ・研修の対象者として、登録日本語教員が加わる→「初任」登録日本語教員にはさらなる研修が必要になる
この研修が対象になってくることを理解して、次年度につなげるよ良い。

【課題】

- ・受講生が減っている、現象を調べる必要がある
- ・6名が研修から脱落した理由を追跡すべきである
- ・研修後の受講生の追跡調査をする必要がある。過去の受講生へのフォローアップ研修を考える
- ・生活者研修の場合、日本語教師の出口の部分→日本語教師としての出口が見えにくい
- ・対面セミナーが初任研修とどうリンクしているのか、だれをメインにしたセミナーなのか見えにくかった
- ・ろう者の受講を受けたことは、チャレンジだが、合理的配慮って何なのか全体で共有する必要があった
- ・対面セミナー後のつながりをつくることが今後の課題
- ・対面セミナーの参加者に普及事業の全容を伝えきれなかった。チラシでもいいので、参加者に理解してもらうことが必要だった



■ 今年度の新たな試み

【撫子寄合日本語教室（在日外国人ろう者日本語教室）の日本人ろう者参加について】

■ 撫子寄合日本語教室とは

日本で生活している外国人ろう者に読み書きを中心に日本語を教えている団体です。
今回はこの教室で指導している支援者の6名が参加しました。（有資格者ではありません。）

■ 経緯

昨年、文化庁より「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修にろう者の支援員の参加に対して相談があった。研修に参加してもらうことで決定する。

■ 実施内容

- ✓ ZOOMの手話通訳機能を利用。
- ✓ 手話通訳に事前に資料を送付し、事前に内容の確認の依頼。
- ✓ ろう者の受講生に事前に資料を送付。研修で見せもらう音声動画も前に送付して、事前に確認の依頼。
- ✓ BORは内容によって、聴者とろう者のグループを作り、手話通訳を通して、グループで討議。
- ✓ BORでの活動案作りなどは、ろう者のグループで作業。



■ 今年度の新たな試み

【成果】

- ・多くの学びを得る場を作ることができた。
- ・講師の話を聞きながら、自分達なりにできることは何かを考えることができた。
- ・ろう者の日本語教師の方々とBORでお話しする機会もあり、ろう者の日本語教育についても知るきっかけとなった。
- ・聴者の受講生、ろう者の受講生、手話通訳、運営側が「オンラインの専門的な研修にろう者が参加するときの注意点」に気づくことができた。

【課題】

- ・在日ろう者外国人住民にとって「日本語教育の参照枠」や「生活Cando」をどのように参照していくかという点において、今後は当事者に合わせた工夫を行う必要がある。
- ・在日ろう者外国人住民がいること、その人たちにのために教室が存在していることをもっと聴者の受講生に知ってもらう機会を作る必要性を感じた。

■ 今年度の新たな試み

ZOOMの手話通訳機能を利用



研修を録画画面 右側に手話通訳の
Windowが表示される機能がある

